

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 6 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Oral clefts and life style factors — A case-cohort study based on prospective Danish data. 口唇口蓋裂と生活様式：デンマーク出生コホートに基づくケースコホート研究</p>	
執筆者	
Bille C, Olsen J, Vach W, Knudsen VK, Olsen SF, Rasmussen K, Murray JC, Andersen AM, Christensen K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Epidemiol. 2007;22(3):173-81.	
キーワード	
アルコール、カフェイン、口唇口蓋裂、喫煙、ビタミン	
要 旨	
<p>目的： デンマーク出生コホート(Danish National Birth Cohort)に基づき、新生児の口唇口蓋裂(口唇裂のみ・口蓋裂合併も含む)と妊娠初期の妊婦の生活様式との関連を調べた。</p> <p>方法： デンマーク出生コホートには約 100,000 人の妊婦が含まれており 1997 年から 2003 年に 192 人の母親が口唇口蓋裂の児を出産した。これらの妊婦と無作為に選んだ 828 人の妊婦からの妊娠中の喫煙、飲酒、紅茶、コーヒー、コーラ、サプリメントなどの食品摂取についての聞き取り調査に基づき研究した。</p> <p>結果： 妊娠初期の喫煙は口唇口蓋裂と関連が認められた(オッズ比 1.50;95%信頼区間:1.05-2.14)。統計学的に有意ではなかったが、妊娠初期の摂取食品との関連が見られた。それらのオッズ比(95%信頼区間)はそれぞれ飲酒 1.11(0.79-1.55)、紅茶 1.31(0.93-1.86)、週 11 回以上のコーラ 1.40(0.92-2.12)であった。さらに、妊娠初期に毎日 400 マイクログラム以上の葉酸を摂取していた層ではオッズ比(95%信頼区間)は 0.75(0.46-1.22)であり、口唇口蓋裂と負の相関関係が示唆された。コーヒーについても同様の傾向が見られた。これより少量の葉酸、ビタミン A、B6、B12 では関連は認められなかった。</p> <p>結論： 口唇口蓋裂と喫煙の関連を明らかにできた。結論づけられないものの、飲酒が口唇口蓋裂と関連することを支持する結果であった。</p>	